

孫の手通信



— 第27号 —

平成25年1月30日

玉川孫一郎と歩む会

TEL/FAX: 0475 (47) 3014

<http://magoichiro.blog47.fc2.com/>

新年のごあいさつ

一宮町長 玉川孫一郎

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

皆さまには、ご家族おそろいで希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

私は、新たな決意のもと、夢と誇りの持てる新しい町づくりを皆さまとともにさらに進めて参りますので、皆さまの一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

12月議会開かれる

12月6日に開かれた第4回一宮町議会定例会は、補正予算ほかすべての議案を可決し、閉会しました。補正予算の内容をお知らせします。

24年度一般会計(第6次)補正予算

○防災関係備品 177万7千円

非常備蓄食料 2,000食

津波対策ライフジャケット 547着

○津波対策ライフジャケット購入助成金 40万円

津波避難時の救命策として、ライフジャケットを購入することについては、6月の議会で質問をいただき、近隣の状況を見ながら導入を検討すると回答しましたが、その後白子町、長生村と協議した結果、12月議会で補正予算に計上して導入することとしました。

河川沿いの一宮保育所や、津波浸水予想図の浸水付近にある、原保育所と東浪見小学校の児童・園児・保育士・教員、災害時に活動する消防団や町職員を合わせて547着を購入します。

また、町民の皆さまに対する補助ですが、町内全域を対象に、小学生までの児童と75歳以上の高齢者、および要介護者や障害者の方の購入に対して2千円を、それ以外の方に対しては、千円の補助を行います。

○「輝け 千葉の園芸」産地整備支援事業補助金

162万2千円

○市民農園開設整備費用 35万1千円

市民農園については、町民の皆さまから強い要望があり、平成21年から、関係者からなる意見交換会を開催し検討してきました。町の特産物トマトの重要病害である、タバココナジラミが伝染させるトマト黄化葉巻病の問題があり、開園を見合わせてきましたが、今回、7区の1に適地が見つかり、関係者の了承も得ることができましたので、25年4月の開園に向けて整備を行ってまいります。

○都市計画マスタープラン策定委託料 1,040万円

保育所の移設

議会の一般質問で、「保育所の移設について、町はどのように検討しているのか」という質問がありましたのでご説明いたします。

町では、役場の中にプロジェクトチームを作り、保育所の移設について具体的に検討を進めています。検討項目として

は、一宮保育所の単独移設か、一宮、原、東浪見の3つを統合して建設するのか、こども園を設置するのか、どの場所に建設するのか、町が設置するのか、民間の社会福祉法人が設置するのかです。

町が就学前の児童を持つ家庭を対象に実施したアンケートによれば、一宮川を遡上する津波の不安がある一宮保育所の早期移設を求める意見は、81パーセントと圧倒的多数を占めています。まずは一宮、次に東浪見と考えていますが、昨年6月に保育所整備基金の積み立てが始まったばかりで、財源確保が大きな壁となっています。

ちなみに保育所の建設については、これまでは、市町村が建設しても民間が建設しても、建設費の二分の一を国が補助しましたが、官から民へという小泉改革により、平成18年度からは、市町村が建設する場合は国の補助が一切なくなり、全額市町村が負担することになりました。その結果、老朽化した公立の保育所の建て替えを、民間の保育所で行っていく自治体が増えていきます。

今後の予定としては、平成25年度中に有識者による検討委員会を立ち上げ、平成27年度には移設を実現したいと考えております。

東浪見土地区画整理事業の余剰金の処理

この件につきましても、議会で質問を受けましたが、東浪見土地区画整理事業が解散事務に入る段階になり、余剰金の発生が予想されます。公共施設管理者負担金を支出した経緯を踏まえ、町はその使い道について、組合に対して

- ①集中浄化施設の修繕や改築費用に備えての積立金
- ②区画整理地内の公園整備費用への寄付
- ③上総一ノ宮駅東口開設基金への寄付

を要望しています。余剰金の処理等については、組合の総会の議決が必要となることから、組合と丁寧な協議を重ねて、円満に解決をしたいと考えています。

(裏面も)ご覧ください。

昨年中は一宮町町長 玉川孫一郎に絶大なるご支援ご協力を賜りありがとうございました。本年もよろしくお願い申し上げます。

玉川孫一郎と歩む会 会長 坂野 勝英

思い出の房総東線

現在上総一ノ宮駅を通っているJR外房線は、昭和8年から47年まで国鉄房総東線と呼ばれていました。C-56型蒸気機関車が勢い良く黒い煙を出して走っていた昭和30年頃、駅周辺は駅前旅館や大型運送店、ミルクホールや食堂、映画館などがあり、みんな大層元気で賑やかな風景でありました。

あの頃、我が家では暮れに家族揃って東京に出かけるのが恒例でした。午前4時40分頃の房総東線両国行き列車に乗るため、冬の星空が瞬く頃家を出て、角八本店と久我薬局の間の大鳥居が聳えているのを見つつ駅に向かいました。駅周辺は、正月用の食材を東京に持つていくための行商の人たちでごったがえしていました。列車内は千葉の工場に早番で勤める人たちが満席です。午前8時頃、目が覚めると両国駅に着いていました。

帰りは両国駅発、午後5時半頃の列車に乗りました。暗くなった東京の街のネオンや都電、ビルの華やかな灯りを見つ、錦糸町、亀戸を過ぎ荒川、江戸川を渡り、市川、船橋を過ぎて幕張あたりに来ると真つ黒な大きな森や暗い畑が見えて来て、ああ、千葉に帰ってきたなあ、と実感しました。

蘇我駅から房総西線と分かれて菅田近くになると、もうあたりは真つ暗闇、遠くに人家の灯りがポツンと見えてくるくらいで、何か寂しい気持ちになったものです。午後8時ごろ駅に着き、帰る途中の一宮橋を渡る頃にはもう普段の自分に戻っていました。

明治30年4月17日、本所から上総一ノ宮駅まで鉄道が開通しました。房総線、房総東線、外房線と名称は変わっても、上総一ノ宮駅は近隣町村を含め、ますます重要な輸送の要となつていきます。玉川町長、2期目の約束であります東口開設の実現により、さらなる発展が期待されます。

最近の新聞より

平成24年10月25日 毎日新聞



「福海岸で行われたクリーンアップウォーク」

散歩しながら海岸ゴミ拾い
一宮町で、一宮海岸のさわやかな風と光を浴びながら心地よい汗流した。
21日に開かれたイベントは事務機器メーカーを併せた初の「大塚商会」の

平成24年10月28日 千葉日報

住民参加型になり盛況 社会福祉大会に2000人



社会福祉大会で親子でダンスを楽しむ一宮町

今春オープンしたボランの表彰・講演に加え、75歳以上の独居高齢者の見守り活動の推進を目的とした「一宮町社会福祉大会」が、10月25日、一宮町の市民センターで開かれ、約2000人が参加した。大会は、社会福祉協議会、一宮町、一宮町民会、一宮町青年会、一宮町婦人会、一宮町老人会、一宮町障害者会、一宮町ボランティア会、一宮町NPO等が主催し、一宮町民会が協賛した。大会は、社会福祉協議会、一宮町、一宮町民会、一宮町青年会、一宮町婦人会、一宮町老人会、一宮町障害者会、一宮町ボランティア会、一宮町NPO等が主催し、一宮町民会が協賛した。



ISA世界ポーターボード選手権大会で優勝した大原さん(右)と岡沢さん(12日、千葉・九十九里浜の東遊見海岸で)

平成25年1月22日 読売新聞(夕刊)

平成25年1月7日 読売新聞

房総発見伝

九十九里浜の南端、一宮町東遊見の約七ヶ浜、冬でも早朝になれば、県内だけでなく関東各地からサーフィサーが集まる。ここ数年で急激に増えてきた感じがする。浜の活性化を目指す住民グループ「99 Beach Guard」(ビーチガード)事務局の市東さん(右)が、感慨深げに話している。

中高生波乗り世界一

ポーターボード九十九里 快挙に沸く
南米ペネエラのマルガ、今回は各国の代表約50人がリタ島で、昨年末に開かれたISA世界ポーターボード選手権大会(国際サーフボード選手権大会)で、女子部門に優勝した。大原さんは、空中に飛び出したポーターボードをひねる「エルゴ」にスピンする女子中高生が、それを加えた大技を決め、他を圧倒。同大会は、男子部門でも、大原さんが優勝した。大原さんは、19歳の若さで、ポーターボードの世界最高峰の大会で優勝した。大原さんは、19歳の若さで、ポーターボードの世界最高峰の大会で優勝した。

浜の振興波に乗せる

住んで来た。以来30年以上、造りた行政や企業なども巻き込み、浜の振興やサーフィンの普及を目的として、一宮町の関係者など様々な「自分と同様、この土地が、サーフィンの発展に貢献したい」という思いで、この大原さんと力を合わせ、町を活性化させたい。2006年、サーフィンの普及を目的として、一宮町の関係者など様々な「自分と同様、この土地が、サーフィンの発展に貢献したい」という思いで、この大原さんと力を合わせ、町を活性化させたい。

エコトイレ作った次は



九十九里浜 旭市の刑部(きょうぶ)岬からいすみ市の太東(たいてい)岬まで弓なりに続く全長約600mの日本でも2番目に長い砂浜。原朝朝が浜辺を一目進むことに矢を立てさせたところ、99本になつた伝説から名付けられたとも言われる。日本の海100選に選ばれるなど、黒潮が交わる治海はイワシやハマグリなどの魚介類が豊富で、一方、砂をもちたたらした1960年代に激化した結果、浜に砂が減少。砂浜の浸食が深刻化しており、県は沖合に大量の砂をまくなどの対策を進めている。

最近、浜を愛してくる人が増えたと感じる。トイレが増えたサーフィサーが、サーフィンの普及を目的として、一宮町の関係者など様々な「自分と同様、この土地が、サーフィンの発展に貢献したい」という思いで、この大原さんと力を合わせ、町を活性化させたい。